

リリース目前! Windows .NET Server 2003

誌上レビュー

渡邊 誠人
WATANABE, Makoto
<http://www.dotnet.jp/>

どんな変化が起こるのか RC1で徹底追求

COMDEX Fall 2002の基調講演において今年の春にWindows.NET Server 2003の発売が発表された。今後のWindowsサーバーの基本形となるWindows .NET Server 2003で、開発環境はどう変わるのか、また、開発者として何に注意すればよいのかを、Windows .NET Server 2003 RC1を使用して検証してみることにする。

.NETテクノロジーを実装したはじめてのOSというだけでなく、マイクロソフトが“secure by default”を提唱してから、初のサーバー製品となるものだ。これまでデフォルトで動作していたアプリケーションが、このサーバーのデフォルト設定では動作しなくなることも考えられる。

そこで本稿では、Windows .NET Server 2003とWindows 2000 Serverとの違いを比較検討してみることにする。

本稿で前提となるもの

OS	Windows 2000 Server (SP3 + 各種HotFix) Windows .NET Server 2003 RC1 日本語版
開発環境	Internet Information Services 5.0 Internet Information Services 6.0 Internet Explorer 6.0 (SP1)

初級 中級 上級

*) 検証環境はネットワーク環境による違いが影響されないように、VMWare 3.2.0上で環境を構築し検証を行った。
*) Windows 2000 Server/Windows .NET Server 2003 RC1 日本語版共に起動した状態でパフォーマンスを検証した。ApacheBenchは、VMWare上にインストールしたLinux上にApacheをセットアップして使用した。

この記事で解説しているサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DMAG¥SERVERフォルダ以下に収録しています。

¥HTML : パフォーマンステスト用HTML
¥ASP : パフォーマンステスト用ASP

¥ASPX : パフォーマンステスト用ASPX
¥RESULT : テスト結果

Windows.NET Server 2003とWindows 2000 Server

最初に、現在リリースされているマイクロソフトサーバー製品の、Windows .NET Server 2003 (以下.NET Server) への対応状況^[注1]だが、おおむね最新版は将来のSPで対応となっている。これはしょうがないことだろう。

しかし、中には対応しない製品もある。たとえばSQL Server 7.0は.NET Serverでは動作しない。これはSQL Server 7.0でアプリケーションを構築しているユーザーには、悩みのタネになりそうだ。サーバーOSのバージョンアップだけではなく、データベースサーバーのバージョンアップを行なう必要も出てしまうのだから。

話を.NET Serverに戻そう。RC1をセットアップしてみて気がついたのは、IIS6.0はたしかにデフォルトでは使えないようになっている点だ。しかし、Windows XPから搭載されている、イ

注1) <http://www.microsoft.com/japan/servers/windows.net.asp>

図1：.NET Serverのnmap結果

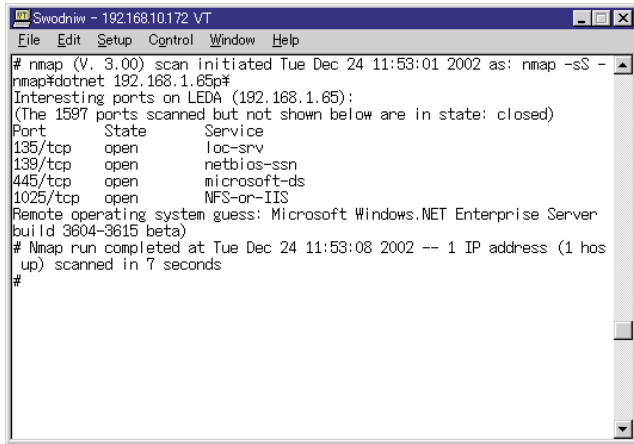
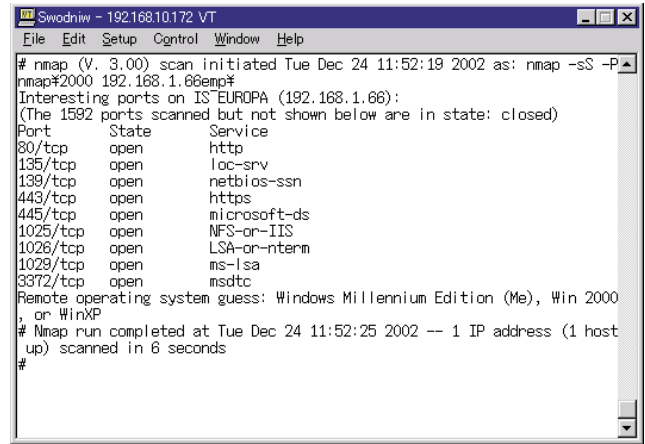


図2：Windows 2000 Serverのnmap結果



インターネット接続ファイアウォール機能は、デフォルトで「OFF」になっている。これでは、外部からの接続に対しては、Windows 2000 Serverと大差ないことになる。

そこで、Windows 2000 Serverと、.NET Serverのセキュア度比較を行ってみた。

Windows 2000 Serverは、SP3やHotFixが適用されているが基本的に設定などはデフォルトのまま使用している。

インストール直後の状態を、nmap^[註2]

注2) <http://www.insecure.org/nmap/>

でポートの状態や攻撃者が攻撃方法を判断する“OSの表示”について、どうなっているのかを、.NET ServerとWindows 2000 Serverに対して同じテストを行ない確認してみることにする。

結果は図1と図2に示すとおりである。.NET Serverは、Webサービスこそ起動していないが、ネットワーク共有は有効になっており、サーバーとして使用する場合はWindows 2000 Serverとそれほど大きな違いはない^[註3]。

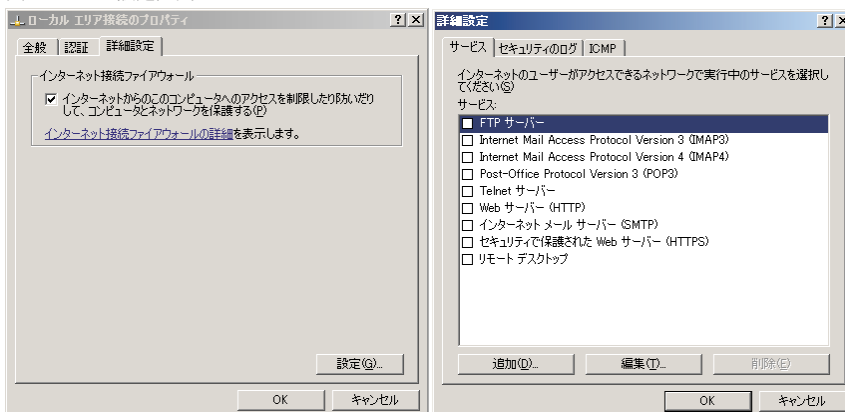
それでは.NET Serverで追加された機能である「インターネット接続ファ

イアウォール（以下ICF）」を有効にして状況を確認してみよう（図3）。結果は図4のようなになる。ICFを有効にすることで、セキュア度は向上すると結論づけることができる。

しかし、この設定によって、開発時にファイルをネットワーク共有を使用し、他のパソコンからコピーなどという、気楽な手法は使えなくなる。

また、本稿ではRC1で確認をしているが、製品版ではICFの有効がデフォルト設定になっていないとは限らない。この場合は、セキュリティ面では大幅に向上したことにはなるが、客先への納入後に設定の変更が必要になってしまう場合も考えられる。

図3：ICFの設定画面



注3) RC1時点では違いがなかったが、RC2になってWindows 95/NT マシンから、.NET Serverで構築されたドメインのメンバとしてログインできなくなっている。これはSMB署名がデフォルトで必要になっているからである。詳しくは以下のURLを参照してほしい。

- <http://itpro.nikkeibp.co.jp/free/NBY/NEWS/20021219/1/>
- また、Windows NTでSMB署名を有効にする方法は、
- <http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;161372>